授業づくりネットワーク夏2005 in 福島

ワークショップ型講座３　　学級・授業を診断するワークショップ

授業感想文の書き方

講師：池内清（東京・聖学院小学校）

本日のワークショップの流れ

1．はじめに　授業感想文とは何か
2．リピートスピーチのワークショップ
3．「授業感想文の書き方」３ステップ指導法
4．授業感想文の読み方
5．本日のワークショップの授業感想文を書く

１．授業感想文とは何か。

■授業感想文とは、授業の終わりの数分間にその授業に対しての感想文を書く作業を行い、その授業の感想文のことをいう。

書式は以下の通りである。

今日の授業は（　　）である。 なぜかというと… ※（　）の中には１～５の数字が入ります。

書く時間は、その時の目的によって異なるが、５分程度が標準である。

■授業感想文３つの効能

①学習のふりかえり

体験的な学習をしたときなど、手軽に子どもたちのふり返りを促す。

②作文力をつける

頻繁に授業感想文を書くことを通して、論理的な作文力を指導することができる。

③授業改善

授業感想文を読むことにより、授業の改善を行うことができる。

２．モデル授業「リピートスピーチ」

「テレビが好きかきらいか」を答えることによって自己紹介をしてもらいます。

そのスピーチメモを書き、相手のスピーチを繰り返し（リピート）、他己紹介スピーチをします。

Copyright Kiyoshi Ikeuchi 2005.8.12

授業感想文カード

年　組（　　）名前（　　）

５・・・とてもおもしろかった　４・・・おもしろかった ３・・・ふつう　　２・・・今一歩かな　　１・・・つまらなかった

今日の授業は（　　）です。

なぜかというと、

授業感想文カード

年　組（　　）名前（　　）

５・・・とてもおもしろかった　４・・・おもしろかった ３・・・ふつう　　２・・・今一歩かな　　１・・・つまらなかった

今日の授業は（　　）です。

なぜかというと、

■スピーチ原稿を書こう。
自己紹介スピーチをします。「テレビが好きかきらいか」をテーマにスピーチします。
以下の書式で書きます。

自己紹介スピーチ（テーマ「テレビが（好き・きらい）です。）

私の名前は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿から来ました。

私はテレビが（　好き　きらい　）です。

どうしてかというと理由は３つあります。

１つ目は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

（ちょっとくわしく説明をする）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

２つ目は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

（ちょっとくわしく説明をする）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

３つ目は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

（ちょっとくわしく説明をする）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

だから、私はテレビが（　好き　きらい　）です。

こんな私ですが、よろしくお願いします。

スピーチメモをとろう

①ラベルをしっかりと聞き取る。（１つ目、２つ目、３つ目）
②名詞を中心に聞き取る。（固有名詞、数字など）
③言葉の関係を矢印でつなぐ。

名前→ ＿＿＿＿＿＿＿＿ どこから→ ＿＿＿＿＿＿＿＿

テレビは　好き　きらい

①＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿

↓　↓　↓

どんな人→＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

リピートスピーチのやり方

①メモを見ながら、スピーチを繰り返すことが出来るかを確認する。
②足りないところは思い出して記入する。

名前→ ＿＿＿＿＿＿＿＿ どこから→ ＿＿＿＿＿＿＿＿

テレビは　好き　きらい

①＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿

↓　↓　↓

どんな人→＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

「Ｋ２方式授業感想文の書き方」３ステップ指導法

以下、K2方式の授業感想文の書き方を３ステップに分けて説明する。

○ステップ１「書き出しを与える」

授業のおしまいの三～五分間を使う。

> 次の書き出しで、感想文を書きなさい。
>
> 今日の国語は、○である。
> なぜかというと、・・・・・。
>
> ○の中には、１～５の数字が入ります。時間は、５分です。

この書き出しを与え、
・５（とてもおもしろい）
・４（まあまあおもしろい）
・３（どちらともいえない）
・２（あまりおもしろくない）
・１（ぜんぜんおもしろくない）
と説明する。

この書き出しには、書き慣れていない子も簡単に書くことができる仕掛けが隠されている。

以下の二点である。
・書き出し文を与えることにより、文章の組み立てを意識しないで書ける。
・五段階評価をすることにより、自分のこれから書く感想文の立場が決まる。すると理由文が明確になる。

また、この他の指示として、以下の二つの指示を付け加える。
・理由の文はなるべくたくさん書きなさい。
・（一文が長くなってしまう時は）丸（句点）の数を稼ぎなさい。

これらの指示は子どもたちの思いを吐き出してもらうためのものである。

このステップ１の書き方を一週間も続けると子どもたちはどんどん書けるようになる。

○ステップ２「データを入れて書く」

徐々に理由文が多く書けてくるようになる。すると、あいまいな理由文も目につくようになる。そこで、理由文にデータを書き入れさせるようにする。

> データ
> ｜
> ｜←一理由づけ
> ↓
> 主　張

書き出しはステップ１と同じである。ただ、理由文を書くときにデータを意識的に入れて書くように指導する。データを書き込むことで、自分の主張が相手にはっきりと伝えることができる。ディベートでいう三角ロジックである。データとは、数字、固有名詞、会話（指導言・発言）などである。

ステップ３　「３つある式の書き方を教える」

ステップ２まで書けるようになると、子どもたちは、理由をたくさん書くようになる。すると、「それから」「また」のような接続詞を使うようになり、理由がごちゃごちゃしてくる。そこで、「３つある式」の授業感想文の書き方を教える。

「３つある式」（国分一太郎）とは、

「私には３つの悪いくせがあります。／１つめは、・・・。／（その詳しい説明）／２つめは、・・・（以下同様）」というような数字を使った書き方である。

これを参考に次の書式を与えて、授業感想文を書かせる。

> 国語の授業は○である。理由は３つある。
> １つめは、・・・
> （くわしい説明）
> ２つめは、・・・
> （くわしい説明）
> ３つめは、・・・
> （くわしい説明）
> 簡単な感想

「３つ」と限定することにより、子どもたちは「理由は何か」を考えながら作文しているようである。もちろん、子どもによっては理由の数が２つでも、４つでも構わない。

以下に典型的な感想文を一つ紹介する。「漢字パズル・東の中に漢字はいくつある」（上條晴夫著「漢字遊びベスト５０」（民衆社1997年）の授業を追試した時の授業感想文である。

> 国語の授業は５である。理由は３つある。
> １つめはおどろいたことだ。
> 何におどろいたかというと、漢字を見つけるのにいろいろな角度で見たからだ。
> いつもはふつうに見ているのに、右から見てみると「町」という漢字が見つかった時にはおどろいた。
> ２つめは、一つの漢字でもいろいろな漢字が入っているということだ。
> 「一」から始まり「日」「田」…とぼくは三十八個の漢字を見つけた。
> ３つめは、友達の見方がおもしろかったということだ。
> たとえば、ぼくには「旧」は見つけられなかった。でも、となりの子に教えてもらってすごくうれしかった。見方を返ることでいろんな漢字が見つかるんだなと感動した。
> ぼくは、こんな見方で漢字を見たことはなかった。今日の国語は「サイコー」。

（授業づくりネットワーク2005.5 №238より）

授業づくりネットワーク夏2005 in 福島　ワークショップメモ

１．オープニング　授業感想文とは何か（１０分）

２．リピートスピーチのワークショップ（３０分）

１）　自己紹介スピーチ原稿を書く。

２）　メモの取り方を教える。

①ラベルを聞き取る。

②名詞を中心としてメモを取る。（数字、固有名詞に注意）

③言葉の関係を矢印で表す。

３）　３人グループになる。

４）　自己紹介スピーチをする。（他の人はメモを取る。）

５）　他己紹介スピーチをする。

左の人の紹介をする。

「これから紹介する人は○○さんです。

○○さんは～からいらっしゃったそうです。

○○さんはテレビが好きだそうです。

どうしてかというと理由は３つあります。

一つ目は、…

これらのことから、○○さんは、～な人だと思いました。」

６）　授業感想文を書く

３．「授業感想文の書き方」３ステップ指導法（２０分）

ステップ１「書き出しを与える」

ステップ２「データを入れて書く」

ステップ３「３つある式の書き方を教える」

４．授業感想文の読み方（２０分）

短いものを選び、その良さをほめる。

データを引用したものをほめる。

段階別にほめる。

先ほどの３人グループで、お互いの授業感想文を読み合いおしゃべりをする。

５．質問コーナー（５分）

６．このワークショップ全体の授業感想文を書く。（５分）

３つある式で書く。

データを意識して書く。